

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991100090		
法人名	株式会社 ヴァントーズ		
事業所名	グループホーム ヴィエント		
所在地	栃木県矢板市片岡1174-2		
自己評価作成日	平成28年11月26日	評価結果市町受理日	平成29年2月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189
訪問調査日	平成28年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご自分のペースで自分らしく家庭的な生活を安心して送っていただけるように、温かい心で寄り添いながら支援に努めさせていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物、併設施設と共用で面談用のテーブルが用意されているなど多目的に使われている玄関ホール、対面式のキッチンが付いて職員との和やかな会話が弾む食堂を兼ねた居間、ウッドデッキが付いている中庭があり、陽光が差し込み全体的に明るい。事業所の理念として『ゆっくり、一緒に、楽しみながら』生活の支援をすること掲げ、職員は利用者一人ひとりのペースに合わせ、その人なりにできることを共に行い、暮らしが楽しくなるよう支援している。事業所の夏祭は、地域の人が参加し、運営も手伝ってくれており、参加者も年々増え100人を超える祭りに発展している。今年度から防災訓練に地域住民も参加するようになり、避難した利用者の見守りをしてくれるなど、地域と一体となった実践的な訓練ができるようになった。近くの保育園の子どもたちが来所し、利用者と一緒に体操や折り紙等で遊ぶなどの交流ができるようになっている。職員は、事業所がオープンしたところからの人が多く、職員間で問題点を提起しやすい雰囲気があり、介護サービスや設備の改善等につながっている。また、利用者の希望に対して最初から無理といわずに、できる限りトライする機会を用意するなど、明るく前向きで積極的な職員が多い

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有してご自分のペースで一緒に楽しみながら安心した生活を送れるよう寄り添いながら支援に努めている。	開設当時の職員が多く、「ゆっくり、一緒に、楽しみながら」の理念が職員間にしっかり浸透している様子がうかがえる。食事の準備も、調理を手伝う人、食器の片付けを手伝う人、そばにいて口だけ出す人など、利用者一人ひとりのペースに合わせ、その人なりにできることを共に行い、楽しみながら日々の暮らしが豊かになるような支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市の福祉祭りや地区の文化祭、さつき展などに出掛けている。地域のボランティアや敬老会、婦人部の方々に来ていただき交流を行っている。	事業所の夏祭りは、運営推進会議等で親しくなった地域の人が手伝ってくれ、事前に配布したチケットを持参して地域の人が参加している。夏祭りははじめ各種イベントには、歌、踊り、傾聴、そば打ち、工作等のボランティアが地域から来てくれる。今年から、近くの保育園の園児が歩いて来所し、利用者と一緒に体操や折り紙等で遊ぶなどの交流ができるようになった。保育園の発表会が3月にあるが、利用者が見学に行く予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方々を積極的に受け入れ夏祭りや食事会などに招待している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方々から多くの意見をいただきながらサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、併設の小規模多機能型居宅介護施設と共催で、年6回開催されている。利用者家族代表・区長・民生委員・地域住民代表・市職員・地域包括支援センター職員等が参加し、情報の提供、意見の交換などが行われている。地域の人から「最近散歩に出ていませんね」と心配する声や、家族からも利用状況の感想などを聞くことができている。自治会長の紹介で消防訓練に地域の人に参加するようになるなど、活発な意見交換がサービスの向上に活かされている。	運営推進会議に提出される利用状況報告には個人情報に記載されている。匿名で記載するなど個人が特定されないように情報の取り扱いには配慮しているが、今後も個人情報の取り扱いには特段の配慮を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や市内グループホーム交流会でお会いして、電話や窓口で相談させていただき連携を取っている。	市の担当者とは、運営推進会議や市内グループホーム交流会で情報の提供や意見交換を行っている。成年後見制度の活用や不在となった利用者自宅への近隣住民からの苦情対応について相談をするなど、日頃からこまめに連絡し連携に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に職員間で話し合いながら転倒のリスクを含め身体拘束をしないケアを考え実行している。また、玄関の施錠をしないで過ごせるよう見守りながら取り組んでいる。	立位保持が困難で転倒のリスクがある利用者に対して、ベットをやめて床に布団を敷いて対応するようにし、昼夜逆転の利用者には睡眠導入剤は使わずに夜間でも職員が対応するなど、身体拘束をしないケアに努めている。言葉による強制や制止がないよう常に話し合い実践に努めており、つい言葉にて出てしまった場合などでも管理者や気付いた職員がすぐに注意するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内や外部の研修会に積極的に参加するように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内や外部の研修会に積極的に参加するように努めている。また、必要に応じて包括支援センターに相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明している。その都度不安や疑問などについては話し合いながら互いに協力していけるよう伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話などで意見を聞けるように努めている。	家族の要望や意見は、面会時や電話での連絡時に聞くようにしており、外出の機会を増やしてほしい等、介護サービスの内容への要望が多い。利用者からは買い物に行きたいとか、食べたい物の希望などが出ている。利用者とともに出かける食材の買い出し時に買い物をしてきたり、月一回の外出時には要望の多い寿司やラーメン、ピザなどを食べるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議に同席して頂き職員より意見や提案を聞いていただける機会を設けている。	月一回開催される定例会では、行事に関する話し合い、利用者一人ひとりの状況説明、職員からの提案や要望などが話し合われている。勤務の都合で参加できない職員には事前に意見を聞き、後日回覧を見てもらうなどの対応をしている。職員意見を反映してサービスの向上につなげた事例として、脱衣室や浴室に手摺りを追加設置したり、中庭にウッドデッキを設けたり、面会者用に玄関に椅子とテーブルを置くなどがあげられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に査定を行い必要に応じては面談を行い各自の意見を取り入れるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に積極的に参加できるように努めている。資格修得のため勤務時間等の配慮に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の事業所間の研修会や交流会に参加してサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人様にお会いし不安等を聞き取り安心して入居して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族様に何度かお会いし話し合いを行い信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様の話を聞き必要なサービスを見極めていくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される一方的な立場ではなく、協力し合い生活をしていく関係を築いていけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会時にご利用様の状態などを伝えできるだけコミュニケーションを取るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方の面会時また来ていただけるよう雰囲気作りに努めている。また、電話での会話ができるよう支援している。	近所の人など友人・知人が面会に来ている。居室に椅子とテーブルを用意し、ゆっくり話せる様な雰囲気を作るなど、気軽に来てもらえるような配慮をしている。面会者が飲物や菓子などを持参し、居室でくつろぎながら飲食を楽しむ利用者もいる。家族等が遠方において電話で話したい場合には電話をかけるなど、馴染みの人との関係が途切れないような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの席を考え、職員が間に入るなど工夫をし孤立しないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も何時でも相談や施設に遊びに来て下さるよう普段から信頼関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度ご本人様に希望や意向を尋ね困難な場合は話し合いを持つよう努めている。	希望や意向を本人から話すことはあまりないが、入浴時の一対一になる時や普段の何気ない会話の中から利用者の意向をくみ取るようにしている。何を聞いても「はい」とだけ答える利用者でも、常日頃の態度・行動や顔の微妙な表情から、思いや意向をくみ取るようにするなど、その人らしい生活ができるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアをする中でコミュニケーションを取りながら把握に努めている。フェースシートやご家族様との会話の中から情報を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の特徴や状態の変化を記録するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例会議や申し送り等で課題やケアについて話し合い、病院受診に同席しご家族様とご本人様の意向を聞き作成するよう努めている。	定例会議で計画作成担当者が中心となって一人ひとりのケアカンファレンスを行っている。計画作成担当者は、職員から意見を聴取し、面会時や病院受診時に同席して家族等から意見・要望を聞き取り、モニタリングを実施し、介護計画を作成している。その後も、職員、利用者、家族の意見・要望を把握し、半年ごとにモニタリングを行い、状況の変化に応じて、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートにその都度記入し職員間で情報を共有し介護計画の実践見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度話し合いを持ち可能なサービスを実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コミュニティ祭りに参加したり、定期的なボランティアの方々に来ていただき楽しく潤いのある生活をさせていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医を継続し、必要に応じて同席させていただき主治医と連携を取りやすくしている。また、基本的にはご家族様に受診をお願いしているが必要に応じて施設で対応している。	入居前のかかりつけ医を継続し家族の通院介助を原則としているが、家族の都合により、通院介助を職員が代わることもある。受診の際は書面で情報を提供し、受診結果も医師より書面で報告を受けている。病状によっては管理者が病院に同行することもある。職員は、受診結果について申し送りノートや定例会などで情報を共有している。今年から歯科医が訪問診療に来るようになり、歯科に行くことを拒んでいた利用者が、自ら治療を希望し義歯も作るようになってきている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	その都度ご家族や病院の相談員などの関係者に連絡を取り早期対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はもちろん退院時後も医療機関の看護師や相談員・主治医と連絡を取り合い連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時はもちろんその都度医療的な処置が必要になった場合など終末期の対応は難しいことを説明し、ご本人様ご家族様の希望に沿い可能な限り事業所でできる限りの支援に取り組んでいる。	入居時に、重度化し医療的な処置が必要となった場合など、事業所では終末期の対応は困難であるとの方針を家族に説明している。現在まで看取りの実績はないが、可能な限り事業所で看取してほしいという家族の希望に応えて、医療的措置が必要になり入院するぎりぎりまで支援をした事例もある。事業所としては、家族の要望に応じて、今後ともできる限りの支援に取り組んでいきたいとしている。	今後も家族から可能な限り施設で看取してほしいとの要望が出てくると思われる。看取りなどの家族の要望に応えることが出来るよう、訪問診療や訪問看護の導入を模索し、職員の教育などを進め、体制の整備に努めてほしい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命の講習会に参加している。事業所内研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と近隣の方々にも協力していただき年に2回昼夜想定で行っている。	併設の小規模多機能施設と合同で、年2回の避難訓練を消防署の協力を得て行っている。直近の夜間想定避難訓練では、利用者が自室のベッドで休んでいる状態から始めるなど、出来るだけ具体的な訓練を目指している。地域住民も避難訓練に参加するようになり、避難した利用者の見守りをお願いしている。地域住民が避難場所に椅子を用意したり、独自に連絡網を作成するなど、利用者・職員・地域住民が一体となった実践的な訓練ができている。	今年度から避難訓練に地域住民が積極的に参加してくれるようになったが、今後も引き続き地域と一体となった実践的な避難訓練が続くことを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合った言葉かけや対応に努めているが、馴れ合いにならないようプライバシーに気を付けて支援している。	トイレ誘導や口腔ケアへの声掛けは、さりげなく行い、決して命令口調にならない様につけている。利用者に対しては「さん」付で呼び、意識して馴れ合いからくる言葉遣いに注意している。プライバシーに関わる会話をする際は、入浴時の利用や、周囲に他の利用者のいない時等に、他の利用者に聞かれないような配慮をしている。職員には施設長や管理者が接遇の研修を行ったり、現場で指導するなど、利用者一人ひとりの人格を常に尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が伝えやすい雰囲気作りを心掛けています。その都度ご本人様に選択していただくよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様がご自分のペースで過ごせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時など服装をご本人様に選んでいただいている。また、季節に応じた服装や外出時などご家族様にご協力していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の希望を献立に取り入れたり、食材購入と一緒に掛け相談しながら購入している。食事の準備や後片付けにも積極的に参加して頂いている。	昼食のおかずのうち週5日は近所の人に委託し、これ以外の朝・夕の食事などは職員が作っている。献立は職員が一週間分作成しているが、利用者との会話の中で話題になったもの、旬の食材を頂いた時など、献立を柔軟に変更している。近くのスーパーで利用者と共に食材を購入している。食べたい物を、食材の買い物から調理まで利用者自ら行うのを支援したこともある。利用者と職員と一緒に食事し、弱視利用者に対しては食器の形や配膳位置に配慮している。施設のすぐ後ろの食堂や回転ずしに出かけるなどの利用者にはお楽しみの食事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとり食事摂取量・水分摂取量を記録して体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合った口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとり排泄表に記録し、間隔や仕草などを把握して出来る限り失敗のないよう支援に努めている。また、トイレで排泄が出来るよう立位が困難な方には二人対応にて安心・安全を心掛けている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者の動作をみて適時声かけ誘導を行っている。管理者は、利用者の中には失禁した時の羞恥を恐れて、布パンツに移行することをためらう人もいて、その不安を取り除くためにも、一人ひとりの排泄パターンの把握が大切だと考えている。夜間は無理に起こすことはしないで本人のペースに任せていて、起きた気配を感じて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・食事・運動を心掛け促すよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週に3回入浴できるよう曜日を決めているが、ご本人様の希望や体調を考慮しその人にそった支援に努めている。	週3回午後1時ころから、その人のペースに合わせて入浴を支援している。入浴を拒否する利用者には、時間や職員を代え声かけを工夫するなどに対応している。脱衣室は床暖房が施され、浴室はファンヒーターで事前に温めるなど、利用者が気持ちよく入浴出来る様に工夫している。職員の助言により、手すりも浴室に向かう動線上にうまく配置されている。重度化した利用者には、併設の小規模多機能型介護施設の機械浴設備で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分の居室で自由に過ごしていただいている。また、夜間の安眠を確保できるよう朝陽や日中太陽の光をたくさん浴びれるよう支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更された時など、申し送りノートに記入し朝夕の申し送りでも口頭で伝えている。定例会議にて報告・確認している。また、服薬内容でわからない場合には主治医や薬剤師に確認するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事を行い外出や外食等希望を取り入れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や買い物に出かけている。季節ごとの行事を行い外出や外食等希望を取り入れるよう努めている。	ほぼ毎日、利用者全員が近所をゆっくり散歩することや、週3回の希望者による市内スーパーへの食材の買い出しが日常的な外出となっている。サクラ・ツツジ・モミジ見物など季節的な外出があり、欠板市の福祉まつりや地区の公民館祭りなど地域のイベントにも出かけている。クリスマス会を市内の洋食店で行う計画があり、利用者・職員共に楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金の管理ができる方がいないため職員が管理しご家族様に出納帳の確認をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と電話をされたり、友達からの手紙を受け取っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度に気を付けている。季節を感じられる手作りの飾りをしている。また、玄関スペースにひな人形・御節句・クリスマスツリーをご使用者様と一緒に飾っている。	高窓からの光が入り、明るく広々としている玄関ホールは、季節のものを飾り、テーブル・椅子を置き、家族との話し合いの場所に使用するなど、多目的スペースとして利用されている。居間兼食堂は、南側の大きな窓からたっぷりと光が入り、対面式のオープンキッチンがあり、家庭的な雰囲気と職員の顔が見えることで、利用者に安心感を与えている。整頓された廊下は利用者の歩行訓練にも使われており、途中にソファが置かれ、ちょうど良い休憩所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方とテーブルを一緒にしたり、ソファや畳に座り過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真を飾り、使い慣れたものを使用して頂いている。(電化製品や家具・寝具など)	居室入口には、室名の花の写真や工作ボランティアによる作品が飾られたプレートが取り付けられている。室内は、カーテンの色がイエロー、ピンク、グリーンのパステルカラーの3種類の部屋がある。ベッドのほか使い慣れた寝具やタンス、テレビなどが持ち込まれ、思い思いの居心地の良い部屋をつくらせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止のため廊下など移動するところに物を置かないようにしている。ご自分のペースでできることを活かし見守っていく支援に努めている。		